



ノートルダム学： 「聖母マリアの生活と 現代社会」

～ 永遠の視点をもって現代社会を考察し、
聖母マリアの生き方を探求する ～

シスタージョアンナ徐 (Suh)

2020年5月22日



私は、ノートルダム教育修道女会のシスタージョアンナと言います。徐(そ)というのが、名
字で、ジョアンナというのが修道名です。私は日本で生まれた韓国人です。

シスターになって54年目で、ノートルダム女学院中学高等学校で、世界史、現代社会、宗
教、政治・経済を、25年間、教えました。その後、韓国に10年、ローマの修道会本部に5
年、滞在して、ローマから戻ってきた2011年度から、「ノートルダム学」で「マリア様の生き
方」をテーマに、講義をしています。

毎週火曜日に大学内のシスターズラウンジで、ペーパーフラワーや手作りの小物作りの教
室を開いていますので、ぜひ、空き時間にお訪ね下さい。

今日はみなさんに「聖母マリアの生き方」について、お話ししたいと思います。「永遠の視点
をもって現代社会を考察し、聖母マリアの生き方を探求する」というのは、私が2011年から
ノートルダム学を担当していて、副題として考えたものです。

本日の授業内容

- 聖母マリアの生涯をたどる
- 現代社会とは(その特質)
- 現代社会の諸問題
- マリアの生き方に倣う “Be a Lady” 貴婦人
- ノートルダムの精神

2

聖母マリアの生涯をたどった後で、現代社会を考察し、さらに聖母マリアの生き方とノートルダムの精神との関係についても、考えてみたいと思います。

聖母マリアというのは、イエスキリストの母親です。聖霊によって身ごもり、イエスキリストを産み、育て、十字架にかけられて処刑されるイエスを見届ける強さを持っていました。そして、その人生の終わりには、肉体と霊魂を伴って天国に上げられます(聖母の被昇天)。

「マリア様のような素敵な人になりなさい」という意味で、“Be a Lady”という言葉があります。

フランス語のノートルダム(Notre Dame)は、英語では “Our Lady”、日本語では「貴婦人」です。女子大の初代学長のシスターユーゲニア(アメリカ人)は、女子大生に “Be a Lady” とおっしゃいました。

では、実際に「新約聖書」の記述も紹介しながら、マリアの生涯をたどってみましょう。

1. 聖母マリアの生涯をたどる(1)

- 聖母マリアはイエス・キリストの母、ナザレのヨセフの妻。ヨアキムとアンナの娘。乙女のまま神の子を身ごもったと、天使から知らされます。

(1) アヴェマリア「受胎告知」(ルカ 1章 26-38節)



3

(1) アヴェマリア「受胎告知」(ルカ 1章 26-38節)

聖母マリアは、9月8日にヨアキムとアンナの娘として生まれました。そして、まだ結婚前の14歳か15歳頃に、天使に妊娠を告げられます。新約聖書の中の「ルカによる福音書」の1章26節から38節に、「受胎告知」(神の子を宿ったと告げられること)が書かれています。(赤字は、聖書からの引用)

乙女マリアの元に、天使ガブリエルがあらわれ、突然、こう告げます。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」…「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。」(ルカ 1章 28節、30節)

マリアは天使に質問します。**「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」(ルカ 1章 34節)**

マリアの質問に天使は、「神にできないことは何一つない」と答えます。その証拠として、年をとっているエリザベト(いとこ)も妊娠中だと言われて、マリアは納得します。

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ 1章 38節)

このように、マリアは思いがけないお告げに、「はい(Yes)」と言ったわけですね。この絵は、イタリアの初期ルネサンスの画家、フラ・アンジェリコの「受胎告知」です。左側が天使で、右側がマリアです。マリア様は青い服を着ています。

1. 聖母マリアの生涯をたどる(2)

(2) マグニフィカト マリアのエリザベト訪問 (ルカ 1章 39-45節, 46-56節)



4

(2) マグニフィカト マリアのエリザベト訪問 (ルカ 1章 39-45節, 46-56節)

「マグニフィカト」は、妊娠後のマリアが、同じく妊娠中のいとこのエリザベトを訪問した時に歌った「マリアの賛歌」のことです。

「ルカによる福音書」の1章39節から45節が、エリザベト訪問時の説明文で、46節から56節がマリア自身が、エリザベトの元で神を崇めて歌った賛歌です。

エリザベトは、年をとって不妊の女と言われていたのですが、妊娠6ヶ月になっていて、訪問したマリアにこう言います。

「あなたは、女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。私の主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」(ルカ 1章 42節-45節)

その後で、マリアが「マリアの賛歌(マグニフィカト)」(ルカ 1章 46節-56節)を歌います。

YouTubeでマグニフィカトで検索してもらえば、美しい歌が聞けますよ。

この絵の左側が若く妊娠したマリア、右側が年をとって妊娠したエリザベトです。二人の対比がいいですね。

1. 聖母マリアの生涯をたどる(3)

(3) イエスの誕生 (ルカ 2章 1-20節)



(3) イエスの誕生 (ルカ 2章 1-20節)

「ルカによる福音書」2章1節から20節「イエスの誕生」

マリアがイエスを身ごもっていた時期に、人口調査のために、人々はユダヤのベツレヘムという町へ登録に行く必要がありました。人口調査ですから、妊娠中でもなんでも、絶対にふるさとに帰らないといけなかったのですね。

身ごもっていたマリアも、夫のヨセフと一緒に、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ登っていきました。

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。(ルカ 2章 6節-7節)

ベツレヘムは、パレスチナとイスラエルが領有権を争うパレスチナ自治区にあります。上の現在の地図では、ベツレヘムが赤くマークされています。左のイエスの誕生当時の地図では、ナザレとベツレヘムをマークしました。

1. 聖母マリアの生涯をたどる(4)(5)

(4) イエスの神殿奉獻
(ルカ 2章 22-38節)



(5) エジプト逃避
(マタイ 2章 13-17節)



6

(4) ヨセフとマリアは、幼子イエスを神にささげるため、エルサレムの神殿に連れて行きます。

そこでイエスは、信仰があつく聖霊が彼にとどまっていたシメオンという人物や、アンナという女預言者から、祝福されます。(ルカ 2章 22-38節)

(5) イエスが産まれた頃、ユダヤのベツレヘムはヘロデ王の時代でした。

「ユダヤ人の王がお生まれになった」という話を聞いたヘロデ王は、その子を探し出して殺そうとしていました。

その時、主(神)の天使がヨセフの夢に現れて、こう言いました。

「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して、殺そうとしている。」ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた。(マタイ 2章 13-15節)

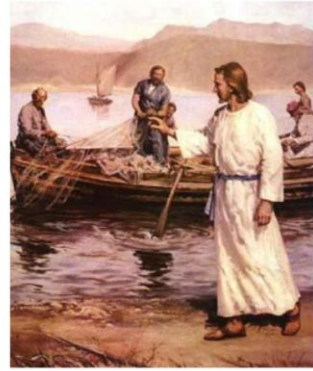
ヘロデ王は、ベツレヘムとその周辺にいた2歳以下の男の子を一人残らず殺させたのですが、神さまのお告げのおかげで、エジプトに逃げていたために助かります。これが「聖家族のエジプト逃避」と呼ばれます。

1. 聖母マリアの生涯をたどる(6)(7)

(6) 少年時代のイエス
(ルカ 2章 41-51節)



(7) イエスの公生活の出発
(母子の精神的独立)



7

(6) 少年イエスをエルサレムで見出す (マリアが「思いめぐらした」経験)

ヨセフとマリアは、過越祭(すぎこしさい)には毎年、エルサレムへ旅をしていました。イエスが12歳になったときも、エルサレムに登り、祭りの期間が終わって、イエスが道連れの中にいるものと思い、帰路につきました。しかし、少年イエスが見つからなかったので、捜しながらエルサレムに引き返しました。三日後、イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問したりしているのを見つけて、マリアはイエスに「心配して捜していたのですよ」と言いました。

すると、イエスは言われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」(ルカ 2章 49節)

当時は、13歳が成人でしたから、イエスはもうすぐ成人する時期になって神としての自覚がでてきたのですね。この返事に、マリアは「どういうことだろう？」と、おもいめぐらしたという出来事でした。

イエスは知恵が増し、背丈の伸び、神と人ともに愛された。(ルカ 2章 52節)

(7) イエスは公生活を始め、母親のマリアから精神的独立をしていきます。

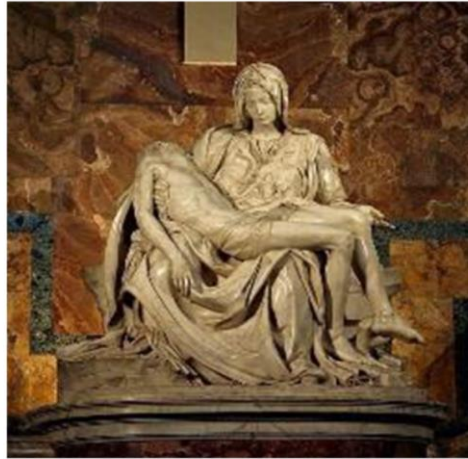
30歳ごろになるとイエスは、行動範囲を広げ、出会った人を弟子にするなどして、母親のマリアから精神的な独立をしていきます。マリアとしては心配だったことでしょう。この絵は、イエスが最初に選んだ弟子である「ペトロ」と出会ったシーンです。ペトロは、漁師でしたが、イエスの弟子になります。

1. 聖母マリアの生涯をたどる(8)(9)

(8) カナの婚宴
(ヨハネ2章1-11節)



(9) イエスの十字架刑場への道のりに
寄り添う母マリア



ローマのパチカン(聖ペトロ大聖堂内)

8

(8) カナの婚宴は、イエスが最初に行った奇跡です。(ヨハネ 2章1-11節)

マリアはイエスと一緒に、ガリラヤのカナという町の婚礼に出ている時に、ぶどう酒が足りなくなってしまいイエスに「ぶどう酒がなくなりました」と言いました。マリアは、この婚礼の手助けをしていて、ぶどう酒がなくなってしまったことを恥ずかしく思ったからです。そして、イエスならその場を救ってくれると信じていたからでしょう。

イエスはここで、マリアの「とりなし」に応じて、水がめの水をぶどう酒に変えるという奇跡を、初めておこないました。これはマリアとイエスの両者が、時と状況を把握し、適切に判断・行動した例だと言えるでしょう。

(9) イエスの十字架刑場への道のりに寄り添う母マリア

イエスは正しいことを言っていたのですが、それによって時の支配者や民衆を敵にまわすことになり、十字架にかけられてしまいます。

マリアは、十字架にかけられたイエスの死という悲しみを受け止め、そのかたわらに立っていました。立つということは強さを表現しています。悲しくて気が狂いそうだったにも関わらず、母は強いですね。みなさんだったらどうするでしょうか。

この彫刻は、イタリアの芸術家・ミケランジェロ(1475年 - 1564年)の「ピエタ」(慈悲の意)です。十字架から降ろされたイエスを胸に抱く彫刻や絵のことをピエタと言います。

1. 聖母マリアの生涯をたどる(10)(11)

(10)聖霊降臨（待つことの意味） (11) 聖母の被昇天



9

(10) 聖霊降臨(せいれい こうりん)

イエスの復活・昇天後、共に集まって祈っていた弟子たちの上に神からの聖霊が降ったという出来事を日本語では「聖霊降臨」、ギリシャ語で「ペンテコステ」と言います。

聖霊降臨はイースターから数えて50日後に祝われ、クリスマス、復活祭と並ぶ大切な祝日です。

(11) 聖母の被被昇天

マリアはその人生の終わりには、肉体と靈魂を伴って天国にあげられました。

カトリック教会では8月15日を聖母マリア被昇天の祝日として祝っています。

信じる民がいつも天の国を求め、聖母マリアと共に永遠の喜びに入ることができるよう祈る日です。聖母の被昇天は信じる全ての人たちの救いの希望を表現しているとも言われます。

2. 現代社会とは(その特質)

- イ 大衆化 大衆社会・画一性・大量消費・無関心
- ロ 組織化 官僚社会
- ハ 都市化 過密化・過疎化・空洞化(ドーナツ化現象)
コミュニティ
- ニ 家族・男女平等 核家族・少子化・高齢化・晩婚化
- ホ 情報化 マスメディア・ニューメディア(インターネット)・
情報公開・知的所有権・プライバシーの権利
- ヘ 国際化 ボーダレス・グローバルゼーション・異文化理解
コミュニケーション能力の向上・国際貢献

10

現代社会とは (その特質) を考えてみましょう。

イ 大衆化 大衆の力によって決定される社会では、個性や自立性が失われがちです。また、政治には無関心、他人指向型の傾向が顕著となってきます。

ロ 組織化 組織化された社会では、個人の個性が抑圧されがちです。

ハ 都市化 人口の過密化、過疎化現象が起こり、都市の空洞化も生じます。個人主義的傾向となります。

ニ 家族・男女平等

核家族.....子供の教育問題、出生率の低下で子供の数の減少がおこっています。

少子化.....1992年度の国民白書でこの言葉が使用されました。

高齢化社会.....総人口の内、65歳以上の人口比率が7%以上になると高齢化社会と言われます。日本では1970年に高齢化社会となり、現在は21%を超える超高齢社会です。

ホ 情報化 大量伝達手段.....新聞・出版・放送・TV・インターネットなどによる、情報化が進んでいます。

ヘ 国際化 各国の相互依存度が深まり、インターネットなどの普及から世界中に情報通信網が発達し、次第に国境が無くなる現象がおこり、異文化理解が必要となっています。

3. 現代社会の諸問題

- ① 環境問題
資源枯渇の警告、環境を守る運動の必要性
ワンガリ・マータイ女史(環境保護活動家、ノーベル賞受賞者)
- ② 生命倫理
人工授精・臓器移植・出生前診断を可能に
尊厳死・安楽死・脳死などの人の死をめぐる問題 etc.
- ③ 国際平和
今もなお続く国際紛争
日本国憲法・国連平和維持活動(PKO)・国連平和維持軍(PKF)
- ④ 人権・差別問題
- ⑤ 地震などの自然災害・新型コロナウイルス問題
- ⑥ 日本における諸問題
少子高齢化・東日本大震災と核問題・女性の社会進出 etc.

11

あなたの周囲では、現代社会の諸問題として、どのようなことが問題となっているか、考えてみてください。

① 環境問題

環境に対する諸問題は深刻です。資源枯渇が警告され、環境を守る必要があります。ケニア出身のワンガリ・マータイ女史は、環境保護活動でノーベル賞を受賞しました。

② 生命倫理

現代の医療技術の進歩は、人工授精・臓器移植・出生前診断を可能にしました。そして、尊厳死・安楽死・脳死などの人の死をめぐる問題もおこっています。

③ 国際平和

今もなお、国際紛争が続いています。日本国憲法9条の改正の議論、国連平和維持活動(PKO)、国連平和維持軍(PKF)にも、注目すべきでしょう。

④ 人権・差別問題

現代社会において、この人権はすべての人に保証されていません。学校でのいじめや民族紛争など、様々な差別があります。みなさんも、具体例をあげてください。

⑤ 地震などの自然災害・新型コロナウイルス問題

自然災害やウイルスの流行など、私たちの住む現代社会には、数々の諸問題が山積しています。

⑥ 日本における諸問題

日本では、少子高齢化社会、東日本大震災と核問題、高度情報化社会、女性の社会進出、就職問題などの問題があります。

4. マリアの生き方に倣う “Be a Lady” 貴婦人

- ① 観想の女性
赤子を見に来た羊飼いの話を「思いめぐらす」ルカ 2章19節
- ② 神の「み心」を生きる
「お言葉どおり、この身に成りますように」ルカ 1章38節
判断力・決断力・勇気・責任感
- ③ 「とりなし」を求める(カナの婚礼) ヨハネ 2章1～11節
- ④ 神に対する愛・忠誠心
- ⑤ 苦難の時、静かに耐え、救いの時を待つ→寄り添う
- ⑥ 人類の母
弟子に言われた「あなたの母です」ヨハネ 19節26-27章
- ⑦ 行動の人
信仰によってマリアは行動する「隣人愛」ヨハネ 19節25章
- ⑧ 祈る人→信仰・希望・愛

12

マリアは、どのような生き方をした人だったかをまとめてみます。

- ① 赤子を見に来た羊飼いの話を「思いめぐらした」(ルカ 2章19節)ことから、**観想(かんそう)の女性**だったと言えます。
- ② 妊娠していると言われたときに、「お言葉どおりこの身に成りますように」(ルカ 1章38節)と答えたシーンから、**判断力・決断力・勇気・責任感**が感じられます。
- ③ 「カナの婚礼」(ヨハネ 2章1～11節)で、「**とりなし**」を求めた様子から、マリアが他者の必要に敏感で、相手に寄り添い、行動する人だったことがわかります。
- ④ **神に対する愛・忠誠心**がありました。
- ⑤ **苦難の時、静かに耐え、救いの時を待つ**(寄り添う)人でした。「黙ってそばにいる」ことも重要ですね。
- ⑥ イエスが弟子に、マリアのことを「あなたの母です」(ヨハネ 19節26-27章)と言われたことから、**人類の母**と言えます。
- ⑦ 信仰によってマリアは**行動する人**(ヨハネ 19節25章)でした。
- ⑧ **祈る人**(信仰・希望・愛)でした。

5. ノートルダムの精神

ノートルダム(Notre Dame) は Our Lady
(キリストの母、聖母マリア) を意味するフランス語

「徳と知をモットーとして聖母マリアにならい、人としての成長を目指します」

★ ノートルダムのミッション・コミットメントの4つの動詞

- ① 尊ぶ
- ② 対話する
- ③ 共感する
- ④ 行動する

13

最後に、今日、学んだ聖母マリアの生涯を思い出しながら、ノートルダムのミッション・コミットメントを唱和してみましょう。

ノートルダム(Notre Dame: フランス語)は、キリストの母、聖母マリアのことです。

ノートルダムを校名にいただく私たちは、徳と知をモットーとして聖母マリアにならい、人としての成長を目指します。

『尊ぶ』人と自分、物と自然の全てに敬意をもって向き合います。

『対話する』心をこめて聴き、かわりから学び、真理を探究します。

『共感する』心を開き、人や時代の要請に敏感な感性を持ちます。

『行動する』対話し、決断し、責任を持って人々の幸せと世界平和のために行動します。

神への深い信頼が 聖母マリアをこのような生き方へと導きました。私たちも、人間を超える大きな力に支えられている確信が持てますように。

みなさんが、充実した4年間の大学生活を送られることをお祈りして、今日の授業を終わります。